

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102321		
法人名	医療法人有葵会のぼる内科		
事業所名	有葵会のぼる内科グループホームゆうき	ユニット名	
所在地	長崎県諫早市多良見町元釜5番地15		
自己評価作成日	平成26年8月11日	評価結果市町村受理日	平成26年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成26年8月28日	評価確定日	平成26年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

7階建ての4階フロアにある。ゆうきは、大村湾を一望でき、目に優しい緑と、日々違う色の海を楽しむことができます。天気がいい日は車の通りも少ない外周を車いすや杖を利用して散歩ができる安全な環境で、スタッフと入居者が家族の様に寄り添って、生活しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームゆうき”は諫早市多良見町にある。みかん畑をされていた方もおられ、みかん畑を眺めたり、家族も伊木力みかんを持ってきて下さっている。ホームからは大村湾の花火を見る事もでき、周辺の散歩もされている。「ホームで最期まで」と希望される方も多く、建物内に医師が24時間常駐し、いつでも相談できる体制が整っている。理念にある「心の声に耳を傾け、共感する」ための業務改善も行われ、日々の食事は母体の“のぼる内科”で作られるようになった。今後も調理に使われていた時間を活用し、ご利用者と過ごす時間を増やされたり、職員同士が思うように意見交換ができる環境を作られていく予定である。ご利用者も職員も“みんな幸せになりたい”と言う思いを大切に、楽しく仕事ができ、“誰かの役に立たせて頂いている”と言う謙虚な思いで仕事ができるように、チームワークの構築を続けている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目立つ所に理念を書いたものを、貼り共有しているが、実践につながっているのかさだかではない	運営推進会議で、理念ができた経緯を説明している。ユニット毎のミーティングで、職員個々の言動や日々のケアを振り返る事ができるように、ホーム長が様々な研修を続けており、ゆとりあるケアとなるように業務改善も続けている。	職員に意見を求め、日々のケアの拠り所（大切な行動指針）となる理念の見直しが行われている。ご利用者の“心の声に耳を傾け”、“その人らしさを尊重”するケアの在り方を意見交換すると共に、日々の言動の振り返りも続ける予定である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流していない。	保育園と小学校の運動会に行かれたり、同じ建物内の有料老人ホームに生活している方と1階で団欒されている。ホーム長が地域でバレーボールの指導を続けており、打ち上げにも参加し、地域の方との親睦が図られている。近くのお店で買物をしているが、回数は減っている。	公民館で、独居の高齢者(女性)と子ども達の交流が行われており、声かけをして頂いている。ご利用者と一緒に参加する機会を作ると共に、近くの保育園児に、ホームに遊びに来て頂く働きかけを行う予定である。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会に出席して下さった地域の方には、認知症に関する。色んな情報をお話している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	居心地の良い共有空間作りという主題で運営推進会議を行ったときに上がった意見に見える所手の届くところに置かないようにする。という意見が出ました。見える所に置かないようにしています。	他の事業所の運営推進会議と重ならないように日程調整を行い、早めに招待状を配布している。年6回開催し、行事報告等が行われ、自己評価項目を活用し、それぞれの立場から意見を頂いている。今後も、家族の方にも声かけを続けていく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	積極的に取り組んでいるとは言えないが、毎月のホーム便りを届けたり 介護保険等わからない事が有るときは直接聞きに行ったり、相談したりしている。	管理者がホーム便りを市に持参し、ホームの様子を報告している。市の担当者とは顔馴染みで、職員の人員体制等も相談し、資料を使って丁寧に説明して下さっている。日頃から協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昼間の施錠はしていないが、夜間の施錠は外部からの侵入者等からの安全を考えて行っている	主治医と連携し、薬を減らす事ができたり、ご本人が病気の症状で苦しんでいる時も、必要な処方を主治医がして下さり、少しでもお辛さを減らす取り組みをしている。日々の見守り等を行うと共に、居室のドアが開いた時に事務室に音楽が鳴るシステムを取り入れ、行動把握に活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族から相談があった時は、共に講演を聞きに出かけたりしていたが、現在は該当する方が、おられないのもあり、学ぶ機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	納得がいくまで、説明する。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時、要望や意見を聞く機会を設けている。	日々のご様子の記録を、担当職員がホーム長に渡している。その情報を基にホーム長がお便りを作成し、家族に郵送している。管理者が自宅訪問したり、家族の面会時や電話の時にも要望を伺い、栄養面の要望等を伝えて下さっている。頂いた要望は日々ケアに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見や提案を聞く機会には設けていない。	ミーティングや申し送り時に意見交換を行っている。職員のアイデアで脱衣所の手すりに色テープを貼り、握りやすい工夫がされている。職員の休み希望にも応じ、曜日によっては他のユニットの職員が協力している。今後は「口腔ケア重点月」などの月間目標を作り、意見交換の機会を増やす予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会があれば貼りだし希望があれば、研修に参加出来る様に手配する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近では連絡協議会なども参加する機会もなく他の同業者との交わりもほとんどない状態		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が気軽に話せる様な受け答えを職員が気がけて行き安心を提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	よい関係を築こうと努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	よい関係を築こうと努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人等 訪問していただいたり、ご本人が「会いたい」と言われる人にホーム便りなどで伝えると会いに来てくださいます。	散歩の時に自宅を教えて下さる。伊木力みかんを作られていた方もおられ、みかん畑を眺めたり、家族がみかんを持ってきて下さる。馴染みの床屋に職員が送迎し、家族とお墓参りや郵便局に行かれたり、有料老人ホームの知人と1階で会われる時もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりや 関心を持っていたけるよう、支援に努めようとしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了されたご家族でホーム便りを愛読して下さってる方の希望があり、現在も毎月郵送している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の訴えに耳を傾けている。日常の会話の中や様子から把握するように努めている。	入浴時や夜勤時、居室に訪問した時などに個別にお話を伺っている。カーテンの閉め方へのこだわりがある方や洋服の着脱の順番など、ご利用者個々の生活習慣を把握している。「散歩に行きたい」「花札がしたい」等の要望を把握し、日々の生活に取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや職員の会話などで、今の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員の意見やアイデアを取り入れ、今の現状に即したケアプランを作成している。	現状・ニーズ・目標・サービス内容(留意点)等が盛り込まれたシート(計画書)を作成している。散歩、洗濯物たたみ、メニュー表を書く、テーブル拭き等の役割も記載し、主治医や看護師からの指示も頂いている。自立支援の視点でアセスメントしており、リハビリ等も盛り込まれている。	ご利用者の居室を訪問し、1対1でお話をする時間を増やし、センター方式も再活用する予定である。ご本人の生活歴や習慣などを記録し、介護計画に基づいた日々の記録の在り方を検討していく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用していない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるように、支援している。	併設診療所の医師がかかりつけ医になる方も多い。毎週の往診(内科・歯科)もあり、受診時は職員が同行し、受診結果は家族と共有している。訪問看護師からケアへのアドバイスも頂き、24時間相談できている。職員の観察力も高く、早期対応に繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2.3回看護師が訪問している。その際に入居者の状態を報告して相談をしている。異変があった時はその都度、指示を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こまめに面会し、症状の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、看取り介護についての同意書を、説明し署名をもらっている。	入居契約時に終末期の希望を確認している。「ホームで最期まで」と希望される方が多く、看取り介護の同意書に署名・捺印を頂いている。夜間も当直の医師がおられ、いつでも相談できる体制が整っており、必要時は看護師も毎日訪問し、医師の指示で点滴をして下さっている。26年1月に看取りケアが行われ、家族も一緒に最期を過ごされた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員とは言えないが、救命救急の講習を受けている職員がいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	夜勤をしている職員は全員順番に訓練に参加し身に付けている。消火器の使い方も訓練している。	自然災害を含めた消防計画が作られている。消防署からの指導で、各居室での入浴(ガス使用)を行わないようにしたり、鍵の取り付け方法を変更し、居室とリビングの間に防火扉も設置している。消防署職員や業者の方、有料老人ホームや診療所職員と一緒に、夜間想定訓練を行っている。屋上に水タンクがあり、食料等も準備しており、今後も備蓄の検討を続ける予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人や周りで聞いている方にも配慮した声掛けを心かけている。	介護をする時は必ず声かけし、ご本人の意思を確認している。ご本人を尊重した言葉かけになっていない時は、管理者等が注意をしている。羞恥心の配慮で、共用トイレにはドアの前にカーテンも使用している。	今後も職員全員が、優しい言葉かけができるように努めていく予定である。ご利用者の立場になって日々の関わりができるよう、これからも勉強会を続けると共に、職員個々の育成方法、指導方法を検討していく予定である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作り自己決定出来るよう働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望にそって支援しているとはいえない。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思で決めていただいている方もおられるが、意思を伝える事が出来ない方は、職員がその方に似合う服を選んでいきます。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳は職員のみ 片づけは利用者と一緒にやっている。	26年7月から、母体の“のぼる内科(長崎市)”で調理した料理を食べられている。栄養士が献立を作り、沢山の種類の材料を使っており、栄養バランスも良い。ご利用者は下膳やテーブル拭き等を手伝って下さっている。ご飯はホームで炊いており、香りを感じる事ができる。	ご利用者から「鯛のお刺身が食べたい」「パンが食べたい」等の要望が聞かれている。今後も願いを叶える方法を検討すると共に、ご利用者の役割発揮のため、“食事やおやつ作り”の機会をいかに作っていくかを検討する予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は確実に摂っていただく様注意をはらっている。ミキサー食 トロミをつけた食事、栄養補給のための食品等あまり食が進まない方のために、常に用意している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている			

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の状態に合わせた支援が来ていると思う。	排泄が自立し、布の下着を使用する方もおられ、コスト意識も忘れず、ご利用者に応じたパッドの検討を行っている。立位訓練等のリハビリ効果も活かし、転倒予防で手すりを持って頂き、できる部分はご本人にして頂いている。居室のトイレを使用する方もおられ、職員は物音などに気を配っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄のリズムの把握に努めているが、服薬による排便促進が現状		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の具合が悪かったりした場合は後日に変更したり入浴の順番を変えたりしている。	ご利用者の習慣なども把握し、綺麗好きな方は浴室で2時間過ごされており、職員も体調確認をしている。職員との会話を楽しまれたり、ゆったりと入浴できるように、外で様子を伺う時もある。できる範囲は洗って頂き、入浴日以外は清拭等が行われている。居室のお風呂は利用していない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冷房や電気の明るさ、布団については細かく希望に沿って調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルにしていつでも確認出来る様になっている。変更があった場合は申し送りで伝え、書面にも残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を発揮してもらえる様をお願いして、していただいている。ご自分の趣味等、家族からの情報を得て、支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望により、散髪や買い物に出かける事を支援している。	外出の希望が多い方もおられ、可能な限り職員も同行している。ホームの前は大村湾が広がり、周辺を散歩したり、1階のラウンジでコーヒーを飲まれている。ホーム長等の運転で桜の名所をドライブし、買い物にも行かれている。今後も気分転換の時間を増やしていく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方はご家族がお小遣いを渡して、それを、ご本人が管理し買い物にいかれた時ご自分で支払いをしておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと言われる時は、ダイヤルをしご本人に渡して話せるように、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の光が強い時は、レースのカーテンを閉めて目に刺激が無いように気を付けている。	棚やベンチ、手すり等をホーム長が手作りしている。ご利用者の体格等に応じて椅子の高さの調整も行い、家族が持参したリクライニングチェアを使われている方もおられ、椅子の高さに応じたテーブルの検討を続けている。赤ちゃんの写真や、ご利用者の作られた貼り絵等も飾られ、笑顔を引き出す取り組みを続けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居場所の工夫を、入居者に合わせ工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や思い出の品 写真等を持ってきていただき住み慣れた環境を提供出来るよう工夫している。	居室からも目の前の海を眺める事ができる。使い慣れたタンスや鏡台等を持ち込まれ、観葉植物や花、動物の置物等も飾られている。仏壇も置かれており、職員がご飯やお水を準備し、ご本人がお供えしている。今後も、オムツ等が見えない工夫をしていく予定である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差が有る所は、手すりを付けるなど安全な環境作りに努めている。		